



梓川の
世帯数・人口

世帯数	4,812戸
人口	12,271人
男	6,076人
女	6,195人

(令和5年7.1現在)



夏休みは梓川アカデミア館に出かけよう

アカデミア館では、みんなのワクワクを盛り上げる展示企画や体験イベントが開催されています。いよいよ待ちに待った夏休みの到来ですね。ぜひ、アカデミア館に足を運んでみてください。

夏休み昆虫展

梓川在住の高橋清英さんが企画された昆虫展です。高橋さんは、子どものころから蝶が好きで、これまでに多くの標本を作ってきました。丸田地域や梓川下流域など地域の蝶をはじめ、日本各地、ケニアなど世界各地の蝶も見ること

とができます。

他にも、カブトムシやクワガタの標本もあり、豊富な種類の昆虫観察が楽しめます。高橋さんは幼い頃に蝶を見て感動したことを今でも覚えているそうです。「子どもたちが自然に触れる機会が少なくなっているので、実際に目で見て楽しんでほしいです。環境の変化で数が少なくなってきた蝶もあるので、展示をきっかけに自然保護にも目を向けてほしいです」と話していました。

夏休み昆虫展

2023 7.22(土)〜8.6(日) 入場無料

9:00-17:00 @ アクセスギャラリー

日本を中心に世界の蝶、カブトムシの標本約10箱が展示されています。

魚魚展・魚の博物館がやってくる！2023

2023 7.29(土)〜8.6(日) 入場料 小学生 | 500円 中学生以上 | 1000円

9:00-17:00 @ ギャラリー

サメを中心に展示、専門家によるサメの授業なども予定されています。



▲アゲハ (梓川地区)



▲ラプカ (ゴジラのモデルになった深海サメ)

魚魚展・魚の博物館がやってくる！2023

昨年も3000人の小中学生が来場し大好評でした。魚魚展実行委員会の小川貴光さんの企画です。海がない長野県では水族館に行く機会が少ないからこそ、魚を間近に見られる貴重な機会です。今年もサメを中心に、はく製や模型が展示されるほか、サメの専門家による公開授業も予定

されています。また、子どもたちの描いた魚のデッサンやはく製も展示されます。おすすめのポイントは、普段は見ることの出来ない大きなはく製や、水族館で飼育されていないような貴重な魚が見られることです。小川さんは、「はく製の歯や鱗、目など細かい部分までぜひ、じっくりと観察してみてください」と魅力を紹介していました。

梓川小学校 運動会

新型コロナウイルスの行動制限解除後、初の梓川小学校運動会が5月27日(土)に開催されました。さわやかな青空のもと、児童たちは思い切り運動会を楽しむことができました。今年も午前中を2部に分け、前半が1年生〜3年生、後半が4年生〜6年生が参加するプログラムで、各学年2種目ずつ、短距離走や玉入れ、ダンス、騎馬戦、組体操などの種目を演技・競技しました。組体操では息の合った演技を披露すると、会場から大きな拍手が上がっていました。どの学年も練習の成果を発揮できたのではないのでしょうか。児童の皆さんお疲れ様でした。



▲組体操 (6年生)



▲短距離走 (5年生)

梓川キラリ

子どもたちと映画をつくる先生



麻和先生

梓川小学校の麻和正志先生は、これまで赴任した小学校で20年近くにわたり、子どもたちと一緒に映画やCMづくりを行ってきました。昨年暮れには、全国視聴覚教育連盟の視聴覚教育功労者選ばれました。麻和先生は、「生粋のマツモト人」で、大学時代は美術を専攻しており、現在もアクリル画で個展を開くほどの腕前です。学校内では学級通信のイラストや黒板アート



という形で垣間見ることができそうです。

映画との出会い

映画との出会いは、大学時代に所属していた漫画研究会で、8ミリフィルムでヒーロー映画を撮ったことにはじまります。中学校教員になり、はじめて担任を受け持った生徒たちと短編ドラマを製作しました。以来、赴任する先々の学校で生徒や児童とともに製作を続けて来たそうです。

梓川小での映画製作

梓川小には昨年4月に着任し、担任を受け持った6年3組の児童と、総合的な学習の時間を使って45分の時代SF映画をつくり上げました。

時には学校を巻き込んで製作したこの大作映画は、学級内での試写会を経て、まつもと市芸術館で上映会が行われました。上映会では、クラス

みんなで一つの作品を作り上げたのだと、児童それぞれが満ち足りた笑顔をみせていた事がとても印象的でした。今年度は5年生の担任を受け持ち、児童たちと一緒に新たな映画製作に取り組んでいます。

総合的な学習の時間に学校を訪問すると、ちょうどオーディションが行われていました。司会から板書まで、すべてクラスの子どもたちが進行します。オーディションでは、監督役の「スタート!」の合図で、自薦他薦の候補者が練習してきたセリフを披露します。声の出し方や表情の作り方など、自分たちで考えた指標を基に審査を行い、役者を決定していきます。撮影に入るのはまだ少し先になるように、今年の作品と子どもたちの成長にもぜひご注目下さい。

オーディションの様子



松本市消防ポンプ操法大会が開催

6月4日に松本市消防ポンプ操法大会が4年振りに開催され、小型ポンプの部に出場した第36分団(大久保、南北条、北々条、小室)が見事優勝しました。ポンプ車の部には第39分団(横沢、氷室、岩岡)が出場しました。ポンプ操法は指揮者と選手がそれぞれ機械操作と放水までの動作を行います。正確性と規律俊敏性を競い、第36分団は市の代表として松本消防協会の大会へと進みました。

訓練の様子

出場分団は、大会の1ヶ月前から梓川消防署に指導をお願いし、訓練に励んでいました。

選手以外の団員は、ホースの巻取りやタイム計測などのサポートを行っていました。

選手の皆さんは「火災現場を想定して丁寧な動きを心がける。訓練を通して技術を習得する」分団長は、「団結を図りながら、ケガの無いように取り組んでほしい」とそれぞれ話していました。

消防団活動はいざという時のために重要であり地域の

方々、団員の家族や職場の理解と協力によって成り立っていると感じました。

消防団員募集中



私たちが住む梓川を火災や災害から守る消防団員を募集しています。消防団に興味のある方は、松本市消防防災課(☎33-1191)までお問合せください。



▲ポンプ操法大会 (36分団)



▲訓練の様子 (39分団)